

“見える” 金融の光景

金融都市香港。米ドルにペッグした香港ドルは、安定した世界に通じるハードカレンシーとして香港の繁栄を支えてきた。1米ドル≒7.8香港ドルは四半世紀の間、香港の“常識”であり続けてきた。中環(Central)の街に軒を連ねる世界中の銀行や金融機関の青や赤のロゴマークは印象的ではあるが、それは僅かな例外で、金融は目に見えるイメージを持たない。金融都市香港ではあっても、中環の大通りを歩いて見えるものといえば、林立する超高層オフィスビルやブランドショップ、忙しく走り廻る二階建てバスと路面電車、そして香港に集まった人々ばかりだ。

エアポートエクスプレス香港駅に隣接する、IFC II は現時点で香港一高い420mの超高層ビルだ。そしてIFCとはInternational Financial Centreの略。ある日、私はエレベーターに乗ってこのビルを上昇した。押したボタンは55。最上階の88ではない。55階には香

港政府機関である香港金融管理局の展覧館と図書館があるのだ。真新しいきれいなフロアはシーンと静かで人影も少ない。目指すは展覧館である。長い展示ボード「歴史長廊」には香港金融の歴史や通貨の変遷が示されている、少しずつ歩きながら19世紀の香港ドル発券銀行や、英ポンドペッグ制から変動相場制を経て、現在の米ドルペッグ制への流れがビジュアルに見えてくる。歴史長廊を端まで進むと大きな窓。不思議なくらい超高層ビルに展望室の少ない香港にあって、ここは一般人が外を眺めることのできる数少ない場所のひとつである。55階の高さから見下ろす中環には、HSBC、中国銀行、チャータード銀行、citibankなどの本部・支店ビルが模型のように建ち並んでいる。ここに来ると、少しだけ金融が形になって見える気がしてくる。

(文・写真 広報委員 小柳 淳)



セントラルの海辺に直立する IFC II。最高部はピークトラム山頂駅と同じ高さ。

目次

2009年8月 発行

“見える”金融の光景	1	中 京:春のゴルフコンペ開催/ 亜州花藝展 09~日本香港観光交流年~	10
グローバル金融危機と香港ドルの将来	2	福 岡:2009年福岡日本香港協会理事会・通常総会開催/ アジアと一体化した福岡・九州を目指して	11
香港へ来たなら、挪亞方舟(ノアズアーク)へ行こう! 今、最も熱いスポット馬湾(パークアイランド)	3	山 形:「直江兼続と山形」、「天地人とレッドクリフ」	12
香港の山野行礼賛	4~5	北 海 道:観光シーズン真っ盛りの北海道	13
香港ブランドのアンテナショップ 「デザイン・ギャラリー(香港・設計廊)」	6	宮 城:2009年度通常総会、記念セミナー、そして懇談会を開催/ お花見会を開催/21年度広東語教室を開講	14
全国連合会・各地協会便り 連合会:全国連合会からのお知らせ	7	沖 縄:沖縄と香港の新たな架け橋	15
東 京:香港エンタメ チケット	8	キャセイパシフィック航空からのお知らせ	16
関 西:2009日本香港観光交流年	9		

「グローバル金融危機と香港ドルの将来」

日本大学 曾根 康雄

香港が、香港ドルの発行システムにカレンシーボード制を導入したのは、1983年7月のことである。97年以降の香港の帰属をめぐる英中両国政府の交渉が難航し、香港ドルの為替レートの下落が深刻化していたときであった。香港ドルの為替レートを米ドルに固定する現行制度(米ドル・ペッグ制)では、発券銀行(香港上海銀行、中国銀行、スタンダード・チャータード銀行)は、香港金融管理局(中央銀行に相当)が管理する為替基金に準備通貨(米ドル)を積み立て、1米ドル=7.8香港ドルの固定レートで債務証券(無利子)を受け取り、債務証券に相当する額の香港ドルを発行する仕組みとなっている。

ペッグ制導入から四半世紀が経過したが、この間に、中国本土の通貨・人民元と香港ドルの関係には大きな変化が生じた。1980~90年代は、中国の改革開放政策の開始に伴い、香港の製造業が隣接する広東省を生産拠点として活用するようになり、同時に、香港人の広東省へのビジネス、レジャー目的での入境も急増した。こうしたモノ、ヒトの交流に伴い中国本土での香港ドルの流通も急増、92年時点で全香港ドルの約30%(推計)が中国(主に広東省)で流通するに至った。80~90年代は、華南地域は「グレーター香港」とも呼びうる香港ドル経済圏となり、人民元に対して香港ドルが圧倒的優位を占めた。

21世紀に入ると、IT革命が促進した経済のグローバル化、生産工程のモジュール化で国際分業体制再編の流れが一気に加速、2001年12月の中国の世界貿易機関(WTO)への加盟が重なり、従来は対中投資に慎重だった外国企業が、一斉に生産コストの安い中国への生産拠点のシフトを始めた。この結果、中国には多国籍企業の生産工程が集積し、中国は全世界に対して完成品を輸出する「世界の工場」の地位を急速に確立した。

WTO加盟を契機とした中国からの輸出ラッシュとそれに牽引された中国経済の高成長の持続は、人民元に対する評価を大きく転換させた。米国など先進国からは自国通貨を不当に過少評価させていると中国政府の「為替操作」に非難が高まり、国際金融市場では人民元の切り上げ観測が台頭した。中国政府は2005年7月に人民元為替制度の抜本的な改革を実施し、人民元の対米ドル為替レートの上昇が始まった。改革時点で1米ドル=8.11元だった人民元は緩やかなペースながら上昇を続け、07年1月には米ドル換算レートで人民元が香港ドルを逆転した。香港域内でも、人民元での支払いを受け入れる商店が増加し、香港住民による人民元建て預金や中国本土の不動産・株式など人民元建て資産への投資も活発化した。香港ドルに対して人民元が優位に立ったとも言える。

ところで、人民元と香港ドルの立場の逆転を背景に、香港ドルが人民元に「統合される」といった噂が海外の一部で流れたことがあったが、それは全く根拠のな

いものである。そもそも、香港の憲法に当たる香港基本法の規定で、香港ドルは返還後50年間すなわち2047年まで存続し現行の発券の仕組みも継続することが明記されている(基本法第111条)。したがって、北京の全国人民代表大会(国会に相当)において香港基本法が変更されない限り、香港ドルが消滅することはあり得ない。

もっとも、香港基本法では「香港ドルの発行には100%の準備通貨の裏付けがなければならない」と記されているだけであり、準備通貨は米ドルとは特定されていない。すなわち、香港基本法の枠内で、準備通貨の中身を人民元に変更し、人民元ペッグへ移行することは可能と言うことになる。ただし、これには、人民元の完全兌換性実現が条件となる。周知のように、香港には為替規制が一切ない。香港ドルの裏付けとなる準備通貨は、經常勘定・資本勘定のあらゆる取引について決済可能な通貨(ハードカレンシー)でなければならない。香港を含む特定地域において貿易決済に人民元を使用する実験が間もなく始まるなど、中国政府としても人民元の自由化・国際化という目標に向かって前進している。とは言え、その歩みはまだ始まったばかりである。しかも、中国政府はこれまで証券取引などの資本勘定の開放には慎重な姿勢を貫いてきた。過去の経験則に従えば、この方針が一気に転換するとも考えにくい。

それでは、香港ドルの米ドル・ペッグ制は今後も存続するのであろうか。米ドルが世界の基軸通貨である限り存続する、と筆者は考える。しかし、2008年9月のリーマン・ブラザーズの破綻に端を発したグローバル金融危機以来、基軸通貨としての米ドルへの信認が揺らぎ始めていることも考慮せねばならない。こうした中で注目されるのは、2009年3月に中国人民銀行の周小川総裁が提案した、国際通貨基金(IMF)の特別引き出し権(SDR)という合成通貨を基軸通貨に育成していくという構想である。周総裁がこうした構想を提起した背景には、国際金融秩序の再構築で影響力を行使したいという政治的意図も垣間見える。人民元が近い将来に基軸通貨になることは、現実的に考えて難しいことを承知した上で、主権国家を超越した基軸通貨構想を打ち出したものとも考えられる。

仮にこの構想が実現すれば、香港ドルの裏付けとなる準備通貨が米ドルから通貨バスケットで構成されるSDRをもとにした基軸通貨単位に変更されるということも十分あり得る。グローバル金融危機によって新たな国際金融秩序を模索する動きが始まっている。米ドルを基軸通貨とする現在の体制が早急に変更されるとは思えないが、新しい国際通貨体制をめぐる議論の帰趨が、香港ドルの通貨システムにも影響を与える可能性があることだけは視野に入れておくべきであろう。

香港へ来たら、挪亞方舟(ノアズアーク)へ行こう！ 今、最も熱いスポット馬湾(パークアイランド)

香港日本人学校 森山 正明(写真・文)



前回の記事でとりあげた馬湾の「挪亞方舟(ノアズアーク)」。今年の5月25日に正式オープンした。そこでオープンし立てのこの施設を訪れてみた。この施設は、旧約聖書の『創世記』(6章-9章)に登場する、大洪水にまつわる、ノアの方舟をテーマにした世界で初めての公園だ。『創世記』の記述による方舟の大きさを現在の大きさに直しほぼ原寸大の大きさの舟が造られている。500mほど離れたパークアイランドのフェリーピアからでもこの建物を眺めることができ、いかに大きいか分かる。

さて今回の見学では、ほとんどの施設を見て回った。感想を交えながら各施設の説明をしていく。

まずは、施設外からも見ることができるARK GARDEN。伝説に基づいた動物のつがいや、絶滅寸前の動物などをほぼ実寸サイズで展示している。さらに、その動物たちについての詳しい説明を掲示。図鑑から動物が飛び出してきたみたいで、動物のことについて身近に感じることができる仕組みになっている。

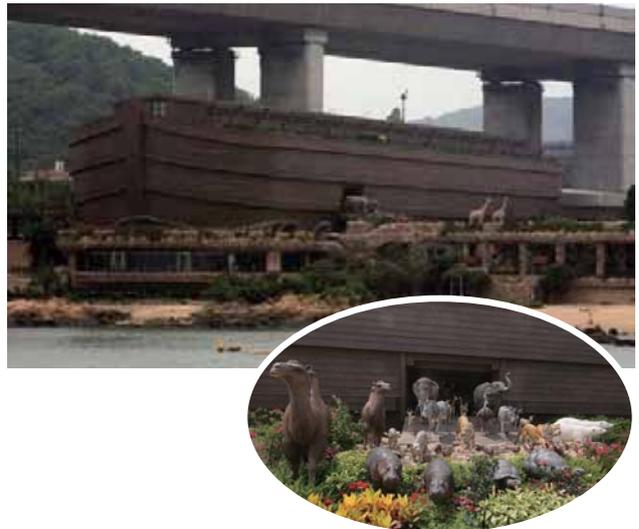
次に紹介するのが、ARK EXPO。この施設の中で一番の呼び物だといえるだろう。このメインは、二つのプログラムが用意されている上映会だ。一つは、180度の巨大スクリーンに映し出されるノアの方舟の物語。もう一つは、五感で地球環境を考える内容となっている4Dシアター。どちらも現在のCG技術を駆使し見どころ満載。上映以外でも、3Dによる旧約聖書の説明を見ることができたり、ノアの方舟での生活の様子をゲームで楽しんだりすることができ、時間を忘れて展示内容を見学することができる。

最後に紹介するのが、TREASURE HOUSE。ここでは、子どもの好奇心を最大限引き出す仕掛けを随所に見ることができる。まさに子どもにとっては、「宝物ハウス」。このハウスには、15の部屋が用意されていて、自らが創作することができるアート体験。音楽に関する体験ができるミュージックルーム。考古学者に扮して化石発掘の疑似体験ができる部屋。さらに、世界の建築物の紹介、人体の不思議発見、世界の言葉、絶滅に瀕している動物たちなどについて、視覚や触覚に訴える形で展示している。子どもはもちろん夢中になって楽しむのだが、私自身も、パソコンと実物を使っ

てに熱中してしまった。

その他、Ark Life Education House(コミュニケーションの大切さを学ぶ)、Noah's Adventureland(屋外で楽しむアスレチックジム)などもあり充実した内容となっている。紙面で説明するより、実際に参観してもらいたい施設だ。子どもから大人まで楽しめる香港では、数少ないテーマパークだ。1日かけてゆっくり各施設を楽しんでほしい。疲れたら1階にあるレストランで馬湾の素晴らしい景色を見ながらゆっくり食事をする事ができる。

ここには、YMCAの宿泊施設もあるので、日本からここを訪れるならぜひ宿泊して見学するのも悪くない。ノアの方舟だけではなく、離島ならではのゆったりとした時間が流れているのを感じることができる。フェリーピア近くのおしゃれなエリアでくつろぐのもいいだろうし、昔、この島は漁業で生計を立てていたことがわかる古い町並みを訪れるのもよいし、自分なりのゆったりとした一日を過ごすことができる。ぜひ訪れてほしい島の一つだ。いつもの香港とは違った魅力を再発見できるパークアイランド。今、一番のおすすめスポットだ。



営業時間：月曜～日曜(祝祭日含む)10時～18時

※第1・第3水曜日はお休み

住所：33 Pak Yan Road, Ma Wan, New Territories, Hong Kong

ホットライン：(852) 3411 8888 Email：info@noahsark.com.hk

○チケット チケットは以下のとおり三種類ある

Rainbow package

Treasure Houseと Ark Life Education Houseに入場可 \$55

(Saturday, Sunday and public holidays) \$65

Noah's package

Ark Garden and とArk Expoに入場可 Adult: \$90

※特別割引：3歳～11歳と65歳以上は、特別割引が適用。\$65

(3歳未満は無料)

Ark package

Ark Garden, Ark Expo, Treasure House, Ark Life Education Houseに入場可

Adult: \$100

※特別割引：3歳～11歳と65歳以上は、特別割引が適用。\$85

(3歳未満は無料)

チケットの購入は、WEBサイトから直接申し込む方法と旅行会社を通す方法がある。 <http://www.noahsark.com.hk/>

チケット取扱い旅行社：中国旅行社、油蔴地旅遊、MTR Travel

交通：フェリー

・中環(セントラル)2号フェリーピア⇄馬湾(パークアイランド)

15分～30分間隔 フェリーピアに着くとノアの方舟が左手に見える。

香港の山野行礼賛

NPO法人日本香港協会 会員 塚本 勝弘

「香港ってどんなところでしょう」

「香港」と聞いて、一般の人々つまり現地在住者はさておき、観光であれ業務であれ滞在期間数日に過ぎない一見の旅行者にとっては、おそらく十中八九思い浮かべるのが、ビクトリア湾をはさんでひしめき林立する近代的超高層ビル群や、さしずめ香港島側なら湾仔(ワンチャイ)・銅鑼湾(コーズウェイベイ)、九龍側なら尖沙嘴(チムシャチャイ)はたまた旺角(ウオンコック)など、いささか猥雑で喧騒の極みというべき下町ショッピング街の風情であろう。「然り」それも確かに香港を描写するに欠かせない一視点に違いない。しかし、それに加えて全く別の角度から、香港の知られざる実態をご紹介するのが、本稿に課せられたお役目です。まあ、だまされたと思ってお読みください。

香港島は南北5000キロにも及ぶ中国の長い海岸線の最南端、北回帰線(北緯23.5度)のわずかに南に位置する、ほんのちっぽけな島である。1842年、アヘン戦争の決着をつける南京条約の結果、時の清朝から英国に割譲された。現在の香港特別行政区の全領域は、これにその後二度の北京条約により、1860年再割譲された対岸の「九龍半島」と、1898年租借した更にその後背地たる「新界」とを合わせた三区域から成っている。その総面積およそ1100平方キロメートル、東京都の約半分ほどに過ぎない。因みに、十九世紀末以来絶えず海面の埋め立て工事が続けられてきたにも拘らず、それによって得た新しい土地の占める割合は僅か6%ほどと聞くと、大自然に対して人間が手を加え得る程度を推して知ることができる。

「大自然を懐に取り込んだ近代的大都市です」

この限られた土地の更に大部分は山地であり、平野部は新界北西部を除きほとんど見られない。ビクトリア湾の両岸は今でこそ、長期にわたる埋め立ての結果、海岸線が本来の位置より大分突出したためそれほどにも感じないが、殖民開始当初は海岸線からすぐに後背山地の急斜面へとせりあがっていた様子が、残された写真や絵画で知ることができる。ここで驚くべき事実は、現在では陸地面積のほぼ40%が23のカントリー・パークで占められ、加えて四つのマリン・パーク共々、保護の対象となっていることだろう。全世界を通じて、国家またはこれに準ずる主権単位は言うに及ばず、それらの下部に属する地方自治体ですら、今の香港に匹敵するだけの自然保護政策を講じている土地は、十分な確証は得ていないが多分なかろうと思われる。

具体的な事例はあえて挙げないが、「大自然に囲まれた都会」という概念、そしてそれに合致する実態の存在はそれほど奇異には感じられない。以前どこかで使って、自分ではいたく気に入っている表現だが、香港を香港たらしめている最大の特徴は、「大自然を懐に取り込んだ近代的大都市」であることだ。一昔前までの香港であるならば、市街地らしきものは一筋の海面を挟んで、九龍半島先端部とこれに向かい合う香港



写真集「The Legend of Sharp Peak」から抜粋

島の旧ビクトリア市(その形成過程から「四環九約」と称された)に過ぎなかったから、どちらかと言えば前者の範疇であったろう。今日、ここ20年ほどの間に、全領域の東から西・南から北にかけて、数多くのニュータウン群が形成された。その結果、これらの各点を線で結びつけると、上記のカントリー・パークの大半が、その範囲内に納まってしまうことになったのだ。これぞ正しく、後者が真なることの所以に他ならない。

「一時間以内で到達できる自然の素晴らしさ」

これで既にご想像に難くないところかと思いますが、かくも多いカントリー・パークのいずれの出入り口も、その人の居住地が何処であろうと、電車・地下鉄・バスなどの公共交通機関を使って、大体一時間以内で到着できる。この事実は、自然愛好者にとっては何物にも替えがたい素晴らしさと言えよう。裏山から眺める市街地のちょっと変わった印象もさることながら、一層眼を楽しませてくれるのは、やはり変化に富んだ山野だ。生態環境も驚くほど多様で、この小さな香港によくぞこれほどと思わせる、多くの種が生息している。そして、人里離れた山間には、今やほとんど放棄されてしまったが、何世紀にもわたる農耕生活によって、綾なされた田園風景の一端すら残されている。地勢もきわめて多様に富んでいる。海拔500米以上の山がいくつもあり、最高峰(大帽山)は900米以上に達する。ほとんどは急斜面であり、周囲を囲まれた谷間へとなだれ落ちていく。夏季の雨は急流となって一気に峡谷を駆け下る。山を歩いていて谷間を通りかかると、「山津波に注意」の警告にお眼に掛かるのもしばしばだ。もう一つ香港特有の風景かと見られるのが、山腹に沿って走る導水路である。歴代水不足に悩んでいた香港で、夏季の多雨をいたずらに海に流してしまわず、極力ダムに取り入れるための工夫なのだ。その脇の通路はよく整備されており、安全な遊歩道としてなかなか利用価値が高い。

一方、海岸線は約260の周辺諸島を含めると800キロにも達すると聞けば、大概の人は驚くだろう。領域の東側は概して非常に入り組んでおり、無数の入り江・断崖が連続している。西側・南側は一般的により穏やかな地形で、比較的長い砂浜や広い湾も時に見られる。こうして、山あり谷あり、湾あり島あり、断崖あり岬あ



日本写真協会会員 金子晴彦氏提供

りと、複雑で驚きに満ちた地形はわれわれを楽しませるに十分だ。ひとつ取って言えば、不足しているのは川らしい川が無いことか。これまで述べた地形の特異性から已むを得ないことであろう。それらしいのは、いずれも新界で一つは沙田の「城門河」、もう一つは元朗の「錦田河」であるが、これらも元々は低湿地と海面が接し、満潮時には両者の境界の見極めが付きにくい地形であったものを、近年治水対策として護岸工事が施された結果に過ぎない。従って、ほとんど静水状態で、むしろ人工の「水路」と呼ぶべき代物だろう。

「実に多彩なウォーキングコースがあります」

さて、かくも複雑・多様な自然を背景にした23にも及ぶカントリー・パークを縫って、ハイキングコース・トレッキングコースが左右縦横に展開している。容易なルートからやや困難そしてかなり難度の高いコース、正に色とりどりであるが、それらを代表する最大の二コースとして、まず「麦理浩径」(Maclehose Trail)と「衛奕信径」(Wilson Trail)を挙げたい。いずれもその設定を主導した元香港総督に因んで命名されている。前者は1970年代、市民の基礎的生活もようよう充実し、多少のゆとりを持ち始めた社会を背景に、余暇の活用の視点から発想されたと聞く。全長100キロ、新界の東端から西端まで、八つのカントリー・パークを横切っている。後者はこれを受けて1980年代、次の総督が更に時代の流れの進化に対応して施工させたもので、香港島の南側から海を越えて新界の最北端に至る、全長78キロ途中同じく八つのカントリー・パークを縦断するコースだ。どちらも起伏に富んだかなり本格的難コースで、よほどの健脚であれば連続して二乃至三日で踏破することが出来よう。しかし一般向きには、全コースを10区間に分けてあり、その順序も必ずしも特定する必要もないから、自分の都合・気分に合わせてその都度区間を選び、適当な回数挑戦すれば結果として完走することが可能である。

この程度ならば、何処の国にでもありそうで、さして驚くには当たらない。感嘆措くあたわないのは、参加者の多様な体力・経験・構成・趣向などに応じて、実に多彩なコースの設定が行われていることだ。以下、ざっとご紹介してみよう。

郊遊径(Country Trail)、自然教育径(Nature Trail)、

健身径(Fitness Trail)、遠足研習径(Practice Trail)、林径(Forest Trail)、古径(Ancient Trail)、馳馬径(Hacking Trail)、緩跑径(Jogging Trail)、樹木研習径(Tree Walk)、家楽径(Family Walk)、奇趣径(Fun Walk)、本地樹木研習径(Native Tree Walk)

ここで、TrailとWalkの差異はいずこにありなど、野暮な詮索はやめよう。それぞれの的確な位置および間隔ごとに、道標や案内板時によっては一寸した休憩設備すら設けられている。生半なことではない。これも言うならば、1980年代から1990年代にかけての香港経済バブル時代の遺産、はたまた英国植民地政府の最後の置き土産のひとつに過ぎないのかも知れない。問題は、今後経済が衰退少なくとも大幅な上昇は望み薄な状況下において、いつまで然るべき維持・補修が続けられるかだ。もっとも、上記二大コースの整備に当たっては、民間の有力企業グループにも応分の醸金を求めたらしいことが伺われる。要は、かくも貴重な遺産に対する、市民自身の認識と善意そして自発的な協力に懸かっている。

「他に替えがたき貴重な観光資源です」

さて、そうは言っても全く土地勘のない人が、いきなり一人で山野に挑戦するのは無理だろう。折角その気になった時、何か手掛かりがあれば良い。幾つか考えられないでもない。一つは、ガイドブックである。勿論、すでに市販の作品中にも、優れたものが見られる。“郊野新角度”(漁農自然護理署2003刊)、“香港行山通”(郊野公園及海岸公園管理局2006刊)など。但し、残念ながら本文はいずれも中国語と英語の併記である。眺めているだけでも十分目を楽しませるが、誰向きにもとは行かぬ憾みが残る。そこへ、朗報の登場である。前出の漁農自然護理署の新企画で日本語版“香港トレイルガイド”が今秋には出版予定で、大いに期待されたい。かなりの大冊(280P)なので、ここではほんの一部の紹介に止める。

ちょっと寄り道：ピーク(Victoria Peak, 522m)の本当のピーク

誰も香港に山があるとは思っていない。なのに香港で最も有名なのは「ピーク」。つまりピークとは展望台だと思われているのだろう。「そうだ、ピーク・トラムの終点が山頂だ」と思った人も間違っている。山頂駅の標高は396m。ピークは522mだ。では、ピークとはどこにあるのか？ 実はこの山、香港を代表して余りあるほどの魅力を秘めている。とことん味わうには北の麓のセントラル(中環, Central)から歩いて登り、歩いて下りるといい。交通費はいらないが体力はいる。それだけに、いかに香港を体感したような気になる。天気がいよいよの午後、気楽に出かけてみよう。

始点：ランドマーク(The Landmark)のルイ・ヴィトン前

終点：香港動物植物園(HK Zoological & Botanical Gardens)

距離：7km 時間：2時間半 難易度：ややきつい

交通：MTR:中環(Central)のG出口を地上に出たところ

それでも尚、本だけでは心許ないと懸念される向きもあろう。その場合は、最高の人材ガイドがいる。香港の山歩きと言えば、他ならぬ森久三代子嬢(通称モリQさん)の出番だ。彼女が主宰している“香港山海径倶楽部”は、今年で発足10周年を迎えた。その活動振りの詳細はそのHP(sankaikai.com/qchan.html)を参照されたい。過去数年間の実践記録が見られるが、ほぼ毎月欠かさずしかも時には月数回の例も少なからず、誠に半端ではない。是非、安心してご相伴の役をお願いすることを勧める。その他、旅行社ではワイバード(ybird.jp)が自然探索のテーマツアーの参加者募集中の案内を見かけた。一人でも多くの人に香港の自然美を享受頂けるよう祈っている。

香港ブランドのアンテナショップ「デザイン・ギャラリー(香港・設計廊)」



斬新なデコレーションの店内風景

香港貿易發展局 次長 伊東 正裕

香港展示会の中心地「香港コンベンション&エキシビジョンセンター」内に位置し、香港貿易發展局が運営する香港ブランドのみを扱うショップ「デザイン・ギャラリー」をご存知でしょうか? 「デザイン・ギャラリー」は、香港と第三国の貿易振興を担う準政府機関である香港貿易發展局が、香港の有名デザイナーによるユニークなブランド製品をPRするアンテナショップです。1991年にオープンした当時は展示のみで商品の販売はしていませんでしたが、翌1992年より販売を開始、2008年9月に二つに分かれていた販売エリアを統合して新装オープンしました。同店のスローガンは、「HK DESIGN 100%」、その品揃えは、クリエイティビティ溢れる香港デザイナーグッズの宝庫として知られており、展示会を訪れた世界各国からの来場者からの注目を集めています。

広さ凡そ400㎡のショップには、古き良き時代の香港の生活をモチーフにした文房具や、ブルースリーのフィギュア、ダブルデッカーバスの模型、ジュエリーやアクセサリなどの小物からTシャツなどアパレル製品に至るまでお土産や香港旅行の記念品として最

適な商品が手頃な値段で販売されています。400のメーカーから、4,000の品目が常時取り扱われていますが、品揃えは毎月見直されておりますので、香港トレンドの最先端を垣間見ることができるのも特徴です。最近では、エコ製品の取り扱いが増えており、リサイクルレザーを使用したシステム手帳や財布、米の袋に取っ手をつけた買い物用エコバッグなどユニークな商品も販売されています。見本市などで香港へ行かれる方は、ぜひ本「デザイン・ギャラリー」へお立ち寄り下さい。日本香港協会が所属する香港ビジネス協会世界連盟の会員証を提示すると、10%OFFの特典もありますので、会員の方はこの機会をお見逃しなく!



古新聞紙から作った
ハンドバッグ



リサイクルレザーを
再加工した文具類



米袋を再利用した
エコバッグ



「デザイン・ギャラリー」全景・入口

「デザイン・ギャラリー(香港・設計廊)」

■ 住所: Level One, Hong Kong Convention and Exhibition Centre, 1 Harbour Road, Wanchai, Hong Kong

■ 電話: (852) 2584-4146 / 9

■ 営業時間: 月~金 10:00-19:00
土 10:00-19:00
日・祝祭日 12:00-19:00

※ 香港国際空港デパーチャー・ホール(出発ロビー)のレベル7にも支店がありますので、併せてご利用下さい。

全国連合会からのお知らせ

日本香港協会 全国連合会 吉村 壮太郎

会員特典スタート!

飛龍第61号発送時に別紙ご案内させていただきましたが、日本香港協会の会員皆様への特典がいよいよスタートいたします。レストランでの飲食代の割引などのご優待サービスを準備いたしました。特典の詳細・利用方法につきましては、「日本香港協会会員特典一覧」を添付しておりますのでご覧ください。今後も引き続き全国連合会および各協会では特典の拡充を図って参ります。また、特典内容は常時ウェブサイトへの掲示やメールマガジンにて広く告知いたしますので、会員内外の皆様からの特典のご提供もお待ちしております。

「香港フォーラム2009」開催決定

記念すべき第10回目を迎えます香港フォーラムが、本年12月1日(火)・2日(水)の2日間にわたって開催されます。当フォーラムは、全世界の香港ビジネス協会世界連盟のメンバーが香港に集まり、メンバー間の交流やビジネスの活性を図ってきました。昨年は各協会より90名以上の皆様にご参加いただきました。今年もまた多くの皆様のご参加をお待ちしております。全国連合会としましては、会員の皆様が参加しやすいようにパッケージツアーを企画いたします。詳細につきましては全国連合会事務局までお問い合わせください。



香港フォーラム2008 昼食講演会

第7期「チャイニーズ・マネージメント・アンド・マーケティング・スクール」を開講します

過去6回関西で開講され大好評をいただいております「チャイニーズ・マネージメント・アンド・マーケティング・スクール(CMMS)」が、場所を東京に移し全30回の講義を本年9月より開講します。著名な大学教授・中国ビジネス専門家・華人経営者を講師にお招きし、華人企業経営を理論・実践の両方面からアプローチして解明していきます。対中華圏ビジネスの担当者様および華人についてより深く学びたい方にはうってつけの講座です。全国連合会事務局に資料がございますので、是非お問い合わせください。また、全国連合会のウェブサイトでも詳細をご案内させていただきます。



パンフレットより

「香港ウィーク」が開催されました

「2009日本香港観光交流年」のメインイベントとして、去る7月1日(水)から5日(日)にかけて、六本木ヒルズにて「香港ウィーク」が開催されました。期間中は夜景写真の展示やワインの試飲が振る舞われました。7月4日(土)には、9月公開の映画「カムイ外伝」トークショーとして香港俳優のイーキン・チェン(鄭伊健)さんと崔洋一監督、アクション監督の谷垣健治さんが来場されました。また、7月4日(土)5日(日)は、中国古箏ユニット「鶯と燕」(インとイェン)によるミニコンサート、香港ポリスバンドのバグパイプ演奏、太極拳教室等が催され、多くの方々に香港の魅力をアピールいたしました。多くの会員の皆様もご参加されたかと思いますが、いかがだったでしょうか? 全国連合会は今後も香港関連のイベントのお知らせを皆様に発信していきます。



古箏の優しい音色に心暖まりました



ポリスバンドによる重厚な演奏

香港エンタメ チケット 娘 娘



ミュージカルの街頭看板



上環文娛中心のURBTIX窓口

香港は、美食・ショッピング以外、何もないと思っ
ている方が多いと思いますが、意外や意外、年に何度もビ
ッグアーティストのコンサートや、ブロードウェイやロ
ンドンのミュージカルなどの来港公演が開かれている
のです。欧米のアーティストは日本や韓国での公演
と香港、台湾を順に回っていくことが多く、運がよけ
れば日本での機会を逃してしまっても、香港で見るこ
とができたりします。また、地元の演劇や香港POPSの
コンサートも数多く催されています。演劇にはオペラ
上演のように字幕がつくこともあります。

中国語で、演唱會はPOPSコンサート、音楽劇はミュ
ージカル、舞台劇・話劇は演劇のことです。

香港には、様々なチケットを扱う二つのプレイガイ
ドがあります。一つはURBTIX(城市電腦售票網)、もう
一つがHK Ticketing(快達票)です。香港内にある窓口
で購入するほか、電話やインターネット上での購入、
電話での席のキープなどのサービスがあります。香港
では日本と違い、公演の1~2ヶ月前にチケットが売り
出されるので、公演間近でもチケットが買えます。また、
人気のあるアーティストの場合一週間前に売り切れ
でも、数日前になると主催者側が招待者用にキープし
ていた券を追加販売することもありますので、窓口で
コンピュータをチェックしないで「売り切れ!」と言
われてもあきらめず、チェックしてもらってください。

今年後期では、香港POPSのコンサートは、8月軟硬天
使、張信哲、9月許冠傑、10月容祖兒、12月鄭秀文が、ミュ
ージカルは9月に「ちびまる子ちゃんのシンデレラ」等が
予定されています。

詳細はネット上でご確認ください。どちらのプレイガ
イドも英語、繁体字、簡体字の3バージョンが用意され
ています。

<http://urbtix.cityline.com.hk>

Tel (852)27349009

<http://www.hkticketing.com>

Tel (852)31288288



湾仔

“留守中にブレーカーが下り停電状態になっていま
した。ドアを開けるや悪臭が部屋中に漂っているのだ
です。悪臭の元に誘導されるかのように台所へ行くと、
冷蔵庫・冷凍庫温度が28度を示していました。昨日は
水道の水から急に油のような強い匂いが…。6月4日
には衛星放送を見ていましたら、突然画面が真っ黒に…。
久しぶりにもどるや騒動続きでした。水の匂いの原因
は分からないままです。管理事務所によると何か処理
をしたというのですが処理内容は明らかにされませ
んでした。”

6月4日・TV画面が突然真っ黒~というところでお
気づきと思うが、メールの相手是北京在留の日本婦人
で娘さんがアメリカの研究所で働いているので激励
に2ヶ月近く北京を離れていた。ご主人は定年後も上
海で働いており、正にほぼ中国人に近い夫婦だ。よほ
ど安いアパートに入っているのだろうとご主人に聞
いたら、とんでもない、新築マンションを買った知人
から借りているという。中国では水回りの悪いアパ
ート、戸建てはいくらでもあり、20年も前でも日本の有
名建築会社と商社が組んで戸建て住宅をあちこちに造
ったが、日本人の多くが単身赴任なので売れ行きはよく
なかった。それ以上に問題なのは水を流してもパイ
プが詰まって水が流れないケースがかなりあった。良く
調べると、完成間近にパイプの先端に木屑などをつめ
てしまっているらしい。作業員の嫌がらせかおまじな

いらしい。普通住宅販売は香港でもそうだが、
furnishedかunfurnishedだが、中国の場合内装は手
付かずで壁・床・天井などコンクリの打ちっばなしで
台所の設備、トイレ、洗面台もなく電気も配線してい
ない状態で、即ち住宅の骨格だけで販売するようだ。
要は安くなければ売れないこともあるが、内装で色々
ごまかされるより自分でという発想だと思う。但し
内装業者も専門業者もまだ育っていないので、おそ
らく電気、水道、塗装とそれぞれ専門業者を見つけて
くるのだろう。それにしても資材をごまかしたり、工
事の手抜きはお手の物なので毎日見張る必要もある。
壁の中に埋め込んだ配線は安物に違いないと壁をは
がし配線し直した結果、逆に漏電で火事になったな
ど落語のような話もある。

考えてみると上海の浦東は昔は漁村で地盤は軟弱
だ、そこに超高層ビルをどんどん建てたが、地下水も
枯渇し毎年地盤沈下しているが住民はそんなことは
おかまいなしだ。今や不動産事業は中国最大の産業だ。
不動産産業が建材、家電など諸々の産業を支えている。
実際にバブルがはじけても、銀行の貸し出し拡大策
で資金は不動産、株式市場にまわっている。そこで若
干欠陥があってもとなる。6月28日の香港紙は上海で
8割方販売済みの高層マンションが突然倒壊したと
報じている。手抜き工事で四川地震の学校のTOFU現
象と同じだという。それにしても中国で住むのは今
も昔も命がけだ。

2009日本香港観光交流年

関西日本香港協会 理事 伊藤 嘉弘

今年は、「2009日本香港観光交流年」です。

日本での香港政府観光局の活動は、日本人の渡航者数の増加、香港での滞在日数や消費の拡大を目的としています。今年は、日本人の海外観光旅行の自由化から45周年にあたり、香港人の訪日旅行査証免除の適用から5周年になることから、双方のさらなる観光交流の促進を目的に「2009日本香港観光交流年」が制定されました。日本と香港両地域の観光促進を目指しており、双方での「スピーチコンテスト」や東京での「香港ウィーク」など、様々な事業が行なわれます。

香港では、2008年2月からアルコール度数30度以下の酒類およびワイン全般の関税が撤廃され、今まで以上に手頃な値段でワインを楽しんでいただけるようになりました。「アジアのグルメ首都」と呼ばれる香港には最高級の素材、卓越した受賞レストラン、世界各国の幅広い料理のすべてが豊富に揃っており、極上の食事とワインという新しい香港スタイル「フード&ワイン」を皆様に楽しんでいただけるよう今年を「2009香港フード&ワイン・イヤー」と定めプロモーションをしております。今年10月30日から11月1日まで開催される「香港ワイン&ダイニング・フェスティバル」では、西九龍ウォーターフロント・プロムナードでワインの試飲やフードの試食、ライブミュージックショー等が予定されており、香港政府観光局では日本からの出展者も募集しています。香港貿易發展局でも、11月4日から6日まで「香港国際美酒博覧会(香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェア)」を開催し、ワインのみならず世界中のアルコール製品や関連グッズが展示されます。

さらに香港政府観光局では、観光客の方々にその楽しみ方を伝えるため、各種ガイドブックも発行しております。「香港ローカルグルメガイド」は、香港ならではのグルメ「粥(おかゆ)」「粉(ライスヌードル)」「麵(小麦麵)」「飯(ご飯)」を香港の著名美食家でコラムニスト、日本でもおなじみのチャイ・ランさんや香港の有名料理人ジャッキー・ユンさん、そして「2009日本香港観光交流年親善大使」の成宮寛貴さんなど有名人が選りすぐったメニューやレストランを紹介します。

また、「香港トラムガイド」は、香港島を東西に走る2階建てトラムとグルメ本を合体させたローカル色の強いガイドブックで、トラムの乗り方や活用術のほか、車窓から見える沿線のレストランやスイーツショップを5つのエリアごとに紹介しています。

香港の夏を代表するものといえば、サマーセールです。流行を先取りしたファッションやジュエリーなどあらゆる商品が大幅に割引されます。しかも今年は円高でよりお得感が得られることでしょう。6月29日から8月31日まで開催される「香港サマー・スペクタキュラー」では、お得なショッピング特典はもちろん、人気

ダイニングエリアでの特典や2泊3日の特別ホテルパッケージ、さらに香港の最新人気スポットを紹介した「ヒップ・ホット香港ガイド」の無料提供など盛り沢山です。

香港政府観光局では、団塊世代向けの冊子「ふたりの香港」を作成し、団塊世代へのプロモーションも行なっています。これは、モデルの夫婦が昔に戻ってデート気分で行く香港を楽しむ内容のガイドブックです。太極拳の体験やロマンチックなクルーズ、高級レストランから屋台のお粥まで、なかなか普通の観光ツアーでは味わえない香港をご紹介します。団塊世代にオススメのデートコースをテーマごとに紹介しています。もう何度も出張で香港に足を運ばれたご主人、今度はゆっくりと時間を取って奥様をエスコートして、デート気分で行く香港を楽しんでみてはいかがでしょうか？

さて関西の話題になりますが、2006年9月28日に香港政府観光局は、財団法人神戸国際観光コンベンション協会と友好親善協定を締結しました。これは、香港と神戸が海と山に囲まれた港町として栄え、夜景という大きな観光要素を持つなど、非常に共通点が多く、相互の観光情報の発信を通じて国際観光都市香港と神戸の交流を促進する事を目的として締結されました。締結後は香港から神戸への観光誘致を目的とした観光キャラバンが実施され、また中国市場における地元の特産品の販路を開拓することを目的とした「兵庫・神戸物産展」なども香港にて開催されています。

一方、香港政府観光局では、神戸において「香港観光写真展」を神戸市の協力を得て実施しました。締結3年目を迎える本年は、10月に神戸のミュージック・グルメ船「コンチェルト」にてキャセイパシフィック航空の協力のもと香港フェアを実施し、団塊世代に向けた冬の香港をプロモーションいたします。

さて最後になりますが、第5回東アジア競技大会(EAG)が今年香港で12月5日から13日まで開催されます。オリンピック・アジア競技大会に次いで4年に1回開催される総合競技大会です。大会には9つの国・地域から3000人を超える選手が参加する予定です。是非、12月に香港を訪れて一流の競技を観戦してください。

ご投稿のお勧め

「飛龍」は、皆様に記事を提供すると同時に、会員皆様同士でそれぞれが個別にお持ちの情報・話題を共有する場としてもご活用いただけます。テーマは何でも結構です(美味しい料理、感動した映画、苦労された商談、等々)。ご投稿の分量についても、特に制約は設けておりません。1ページ文字のみで2400字、写真1枚が300字相当とお考え下さい。ペンネームでも投稿可能です。不明点、ご意見、ご要望などございましたら、遠慮なくご連絡ください。ご投稿をお待ちしております。

飛龍編集担当:全国連合会

TEL: 03-5210-5901, FAX: 03-5210-5860

e-mail: national@jhks.gr.jp

福岡日本香港協会 事務局

2009年福岡日本香港協会理事会・通常総会開催

福岡日本香港協会では去る6月9日(火)に福岡国際ホール「九重の間」において2009年第1回理事会及び第17回通常総会を開催し、以下の議案にそって審議を図ってまいりました。

- 第1号議案 平成20年度事業報告・収支報告
- 第2号議案 平成21年度事業計画案・収支予算案
- 第3号議案 役員の変動報告
- 第4号議案 第9回 香港フォーラムの報告
- 第5号議案 第10回 香港フォーラム参加者募集について

まず最初に会長の並田正一氏による挨拶から始まり、平成20年度の事業報告や平成21年度事業計画案など議案事項に沿って審議され、いずれも満場一致で可決承認され理事会及び総会は滞りなく終了することができました。会の中では、今後福岡だけでなく九州一円を視野に入れた活動を幅広く行っていくことも検討していると発表され、より一層の会員増強に力を入れた展開を図っていきたいと考えております。

今年は「2009日本香港観光交流年」とされ、近年日本

および香港の双方向での渡航者数は増加を続けておりこれらを背景として両地域のますますの観光促進を目的に両政府間で取り決められました。今後、日本と香港の交流が観光のみならず文化、産業面でも両地域のさらなる発展の大きな基礎を築くものとなっていくよう期待したいと思います。

今年度の福岡日本香港協会の活動におきましては、香港貿易発展局及び昨年10月に発足された日本香港協会全国連合会の支援のもと、日本と中国・香港の最新の経済状況を発信できるよう講演会やセミナーなどを開催し、より確実な情報提供が出来ればと考えており、市内の公的経済・貿易推進団体と協力しあい相互間の事業の効果を上げていければと思います。また、新たな企画・立案をし、お役に立てるよう努力してまいりますので、引き続き理事及び会員の皆様、香港貿易発展局、日本香港協会全国連合会並びに各関係団体・企業の皆様の格別のご理解とご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



挨拶をされる並田会長



理事会・総会の様子

アジアと一体化した福岡・九州を目指して

福岡は古くからアジアへの玄関口と言われていました。「アジアの交流拠点都市」を掲げ、1989年の「アジア太平洋博覧会」の成功で、アジアで最も生活しやすい都市と評価されるまでになりました。またアジアの交流拠点・福岡をめざし、主に隣国の中国、韓国との交流を深めてきましたが近年、さらに交流圏を拡大して成長著しいアジア諸地域との多様な交流に取り組んでいます。1979年には中国の広州市と友好都市として連携し、今年は30周年を迎えることとなりました。その間にも福岡では航空路線や外国航路などのインフラも徐々に整備されていき、いかに福岡・九州がアジアに密接しきているのかが分かります。昨年12月13日、太宰府市の九州国立博物館を会場として、日中韓首脳会議が開かれましたが、商用機を使って東アジアで1日国際会議が開催できる唯一の都市が福岡ということもあり開催地として選ばれました。また同首脳会議はこれまで、他の国際会議の機会を捉えて開催されてきまし

たが、これが初めての単独開催であり、麻生総理が共同記者会見で「第1回日中韓サミット」と呼んだように、開催地・福岡県にとっても、「日帰り国際会議都市」を強力にアピールする上で、歴史的に画期的な会議でありました。

また日本を取り巻くヒトやモノの動きがアメリカから大中華圏(中国・香港・台湾・シンガポール)にシフトしており、日本からの出国者、訪日外国人の数でも、大中華圏がアメリカをはるかに超える時代となりました。貿易額でも、大中華圏がアメリカを追い抜き、3割を占め、九州としては大中華圏をターゲットに定めることが重要であるとわれています。福岡は今後、九州におけるアジアとの拠点性を高めるためにも、都市の地学的位置、交通インフラを生かし、アジアとのさらなる密接な関係を如何にしてつくり上げていけるか、地域戦略性が問われています。

「直江兼続と山形」、「天地人とレッドクリフ」

山形日本香港協会 副会長 渡辺 晃

NHK大河ドラマ「天地人」の影響とさくらんぼの季節であることから、今、我が山形県には大勢の観光客が押し寄せています。しかし、「天地人」って上杉の話なので新潟県の間違いでは？という方も大勢いるのではないかと思います。まずはここのところの説明をします。上杉謙信は越後の戦国武将。織田信長が唯一恐れていた武将・一度も負けなかった武将・軍神として有名ですが、謙信は信長と戦う準備をしている時に亡くなってしまいます。その後、信長も本能寺で倒れ、豊臣秀吉の天下となりました。秀吉の時代、謙信の後を継いだ上杉景勝と、その若き家老直江兼続主従は秀吉を助け、5大老の一人にまで昇進します。秀吉は、その功労と伊達政宗や徳川家康をけん制する目的で上杉を会津に転封させますが、石高は佐渡の金山、出羽庄内の美田なども含め120万石まで拡大します。その後、秀吉亡き後家康が台頭する訳ですが、5大老の一人としての対抗心と天下取りの勝算があったからか、石田三成率いる西軍に味方したために、米沢へ30万石に減封させられ、江戸時代へと入ります。移転の都度、謙信の遺骸他ゆかりの品々はすべて持ち運ばれたので、上杉のお宝は米沢に現存し、最後の地米沢が上杉の城下町と呼ばれるゆえんです。

大河ドラマはこの辺で終わるはずですが、兼続の本領はこの米沢に入ってからだと言われています。兼続は天下が統一され戦争のなくなった時代に、再び謙信譲りの「義」の精神で、上杉のために働きます。まずは越後、会津、米沢とついてきた家臣をすべて受け入れ、都市作り、経済の復興に尽力します。武家屋敷には農地を併設して野菜と家畜を飼わせ、垣根には食用のウコギを植えさせました。今も残るこれらの武家屋敷跡は質素そのもので、壮大なイメージのある他の地方のそれとは明らかに異なります。越後時代莫大な富を生んだ青そ(着物の材料)や、金より高価と言われた紅花も植えました。まさかのために技術者を招聘し最新の鉄砲も作らせました。最上川の氾濫を抑えるために築堤しました。お墓は、非常事態に隙間から鉄砲を撃つことが可能かつ弾除けになるような、また洪水時にはこれに土を詰めて土嚢にできるような格子状に統一させました(万年塔)。教育には特に力を入れています。日本で最初の銅活字「文選」を発行。優れた書籍収集家でもあり、京都より持ち帰った宗版「史記」「漢書」「後漢書」など多数の蔵書で禅林寺文庫を作りました。この3点はもう中国にも無いらしく、国宝になっています。新田の開発も奨め、実質は50万石位であったとか。それからとっても愛妻家だったらしく、生涯側室を一人も作らなかったそうです。林泉寺にある夫婦のお墓も、万年塔の形をしたまったく同じ1対のものです。この時代夫婦同じ大きさなのは例がないそうです。奥様はお船といますが、兼続の死後も三千石を与えます。



直江夫婦のお墓

女性でこれだけの石を与えられたのは、ねねと春日局の三人だけのことです。これらの遺物、足跡が米沢市の至る所で目にする事ができます。また、上杉の歴史を留める文書はほとんど大切に保管され、「上杉古書」として国宝に指定されています。謙信が唱えた「義」の精神は律儀に引き継がれ、山形の地に、人の心に残っているのだと実感できます。

さて、この「天地人」というドラマですが、レッドクリフと似ていると思いませんか。

「天地人」の義、レッドクリフの愛を信じる、友を信じるというキャッチフレーズ。関が原の戦いと赤壁の戦い。上杉に仕える直江兼続、劉備に仕える諸葛亮孔明。妻夫木聡と金城武。香港の人に「天地人」を説明するとき、「天地人はまさしく日本版レッドクリフ、その遺物・お宝・精神は多く米沢の地で体験できますよ。Welcome Yonezawa, Welcome Yamagata.」と胸をはりたいですね。

飛龍 No.62 2009年8月発行

(禁無断転載)

日本香港協会 全国連合会

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階
香港貿易発展局 東京事務所内
電話(03)5210-5901 FAX(03)5210-5860

NPO法人日本香港協会(東京)

〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階
香港貿易発展局内 電話(03)5210-5870

関西日本香港協会

〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内 電話(06)4705-7030

中京日本香港協会

〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内 電話(06)4705-7030

福岡日本香港協会

〒810-0013 福岡市中央区大宮2-3-7
協同組合福岡情報ビジネス内 電話(092)534-6331

山形日本香港協会

〒990-2432 山形市荒瀬町1-14-21
(株)日本不動産コンサルティング内 電話(023)633-2110

北海道日本香港協会

〒060-8661 札幌市中央区大通西3-11
北洋銀行国際部内 電話(011)261-4288

宮城日本香港協会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-7-23 明治安田生命仙台一番町ビル3階
(株)JTB東北 交流文化事業部内 電話(022)212-5552

沖縄日本香港協会

〒900-0033 那覇市久米2-2-10
那覇商工会議所内 電話(098)868-3758

URL <http://www.jhks.gr.jp>

～観光シーズン真っ盛りの北海道～

中国で大ヒットした映画の舞台「道東」をご案内致します

北海道日本香港協会 事務局

今年は日本香港観光交流年で、観光客誘致に向けて日本・香港で様々なイベントが開催されています。さらに、道東を舞台にしたラブコメディ映画「非誠勿擾」が、昨年12月に中国で公開されて大ヒットしたこともあり、より多くの観光客の方に北海道を訪れていただくよう、官民とも力を入れて取り組んでいます。

香港の映画産業は世界的に有名で、数多くの観光客を魅了していますが、北海道でも95年に公開された映画「Love Letter」が、日本だけでなくアジアでもヒットし、舞台となった小樽に多くの観光客の方が訪れたことがあります。

北海道は日本でもっとも北に位置し、四季の移り変わりがはっきりしており、季節ごとの自然を楽しむことができます。海外から来られる観光客の方がもっとも多い季節は冬ですが、夏の北海道は、梅雨の無い爽やかな気候とともに見所が満載です。

今回は、数ある北海道の夏の観光スポットの中から、映画の舞台となった道東をご案内致します。

☆JR釧網本線北浜駅



北浜駅展望台からオホーツク海、知床連山を望む

映画では、ヒロインが北海道にはじめて降り立つ場所として登場するのが、JR釧網本線北浜駅です。

この駅はオホーツク海にもっとも近い駅で、駅舎から20～30m先に海が広がっており、冬には流水を見ることが出来ます。また、駅には展望台が併設されており、天気の良い日には知床連山を見渡すことが出来ます。

さらに、近くには「小清水原生花園」があり、6～8月にかけて約40種類の花々が一斉に咲き誇る天然のお花畑を見ることが出来ます。



☆美幌峠



美幌峠から屈斜路湖、中島を望む

次に、映画ではドライブのワンシーンに登場する美幌峠からは、「屈斜路湖」、日本最大の湖中島である「中島」の一大パノラマを望むことが出来ます。また、屈斜路湖周辺には温泉が多数あり、中でも湖岸を掘ると温泉が湧き出す「砂湯」が有名です。

☆阿寒湖



夕暮れ時の阿寒湖畔から雄阿寒岳連なる山々を望む

最後は、観光船の棧橋の風景がタイトルバックに使われ、主人公が立ち寄る温泉街の居酒屋が印象的な阿寒湖です。

阿寒湖は国の特別天然記念物「マリモ」が生息する湖で、全域が阿寒国立公園に指定されており、豊かな自然が満喫できます。冬は全面結氷し、ワカサギ釣りが楽しめる他、スケート、スノーモービルなどのウィンタースポーツも満喫できます。

今回ご紹介しきれませんでした、この他にもオホーツク海を一望できる能取岬や、世界自然遺産知床を有する斜里町など、数多くの観光スポットが映画に登場します。

映画のように雄大な大自然に抱かれた道東ドライブなどこの夏如何ですか？

宮城日本香港協会 事務局 武田 功

**2009年度通常総会、記念セミナー、
そして懇談会を開催しました**



武藤弁護士による講演

去る5月15日(金)ホテル仙台プラザにおきまして、2009年度通常総会を開催致しました。来賓として香港貿易発展局の東京事務所次長の伊東正裕氏御臨席のもと、67名(委任状出席を含む)の出席を得て盛大に行われました。第1号議案「2008年度の事業報告及び決算報告」、第2号議案「2009年度事業計画(案)及び収支予算(案)」、第3号議案「会則の一部改正」、第4号議案「役員選任」の4議案について満場一致で可決されました。

続く記念セミナーにおきましては、香港で活躍中の弁護士・武藤錬太郎氏による「香港進出に際しての留意点」と題した講演がありました。「1. 中国ビジネスを展開する上で、香港を中継地とした場合の利点」「2. 香港でビジネス拠点を構築するに際して知っておくべきこと」の2点について丁寧に教えて頂きました。武藤氏は力説しています。「香港には約50万社もの香港会社が登録されている、簡便な手続きで設立が可能であり、しかも低税率、その上、法律上の救済措置が整っている」と。また、「世界規模のビジネスをするのに必要な知識経験を有する企業家との提携の機会が余るほどあり、弁護士自身、単なる法のアドバイザーではなく、クライアントの仲介役である」と。

そして、15階「メープル」に場所変えての懇談会では、宮城県の三浦副知事と仙台市の岩崎副市長にお祝いの言葉をいただき、また、お二人には最後まで会員と親しく懇談していただき、参加した会員も大変勇気づけられました。



三浦副知事(左端)、岩崎副市長(右端)とともに

お花見会を開催しました

去る4月18日(土)、枝垂れ桜満開の太白区の三神峯公園で、「YOU YOUクラブお花見会」を開催しました。天候にも恵まれ、参加者は54名、保険会社、運送会社、通信会社、建設会社、卸業など様々な職種の方々や、共同農地で野菜作りをしている人達、学校の同窓生、そして小学生や名犬まで、様々な人たちが集まり、桜の観賞はもちろん、宮城日本香港協会活動の意義を理解して頂きました。

三神峰公園は多種類の桜があり、長い期間花見が楽しめる公園で、今回は枝垂れ桜が満開、ソメイヨシノは散り始めて桜の絨毯となって、参加者の皆さんに大変喜んでいただきました。



お花見会での至福のひとつ

21年度広東語教室を開講しました

6月16日から21年度の広東語教室を開始しました。講師は20年度と同じ福島大学の大学院生・蔡小煦さんです。昨年度は香港の食べ物、クリスマスソング「平安夜」、春節の慣習、広東語の歌など、楽しく勉強することができました。今年は「さらに香港を身近に」とのテーマで、香港の文化や観光地などの楽しい話題を取り上げて勉強していきます。



やる気満々の教室のメンバー(蔡先生を囲んで)

沖縄と香港の新たな架け橋

香港エクスプレス社増便とANA那覇空港物流拠点の活用に向けて

沖縄日本香港協会 事務局



空港全景イメージ①

沖縄日本香港協会は、設立1周年を迎え、更なる活動・交流の強化が望まれている。

昨年度は、香港エクスプレス航空の就航に併せ、沖縄日本香港協会では仲井眞弘多沖縄県知事を先頭に「香港定期便就航記念経済ミッション」を実施し、交流の足がかりを築いてきた。

沖縄と香港が5年ぶりに直行便で結ばれたことは、人的交流・経済交流の更なる促進に弾みをつけるものであった。世界的景気の低迷や新型インフルエンザの影響等で、航空機の旅客需要が減少する中、沖縄～香港間も例に漏れず、本年4月・5月の搭乗率は減少していたが、香港エクスプレス社は、7月1日より毎日の運行を予定し、予約率は順調に伸びているとのことであった。

香港エクスプレス社は、香港をハブに、米軍関係者の需要が見込めるフィリピン・マニラや沖縄の企業も多く進出しているベトナム・ハノイへの同日乗り継ぎを可能とし、沖縄～香港路線は更なる需要拡大ができると期待している。沖縄と香港を結ぶ航空便のデイリー化は、香港からの観光客の増加が見込めるだけでなく、沖縄・香港にとってビジネスチャンスも拡大するものである。

また、全日本空輸(以下ANA)は、那覇空港のアジアにおける地理的優位性や24時間、運用可能な利便性を活かし、アジア向けの貨物の国際中継拠点となるべく、10月からの運用開始を目指している。

香港は、中国と東アジアにおける物流のハブとして、また中国と諸外国との貿易中継地点としての「ゲートウェイ」機能のみならず、海外企業の拠点機能、華人経済人の首都機能を合わせも、名実共に「国際都市」であるが、沖縄も国際交流都市、国際物流拠点としての可能性が小さいながらも見えてきている。

本年、沖縄日本香港協会では、農林水産省が掲げる「農林水産物の輸出額を平成25年までに1兆円規模とする」目標に向けた支援事業を那覇商工会議所が実施するにあたり、協力・支援することとなった。

具体的には、沖縄物産公社と連携した香港・マカオの高級百貨店・スーパーマーケットにおける販売促進活動、ANAの国際物流拠点の実施にあわせたコンテナ輸送技術やコスト管理、温度・湿度等を記録した品質管理の実証実験を行う予定である。

沖縄における航空物流の利便性は高まりつつあるが、航空輸送費は、依然高く、より多くの航空貨物の確保が、コスト削減には必要である。

この実証実験を先駆けにして、多くの沖縄の生産者・販売者が、香港への農産物の輸出に参加していただくことが目標である。

また温度管理や新包装資材に関しても実証実験を行い、より安全で質の高い農産物の輸出方法の確立を目指す。

香港は、美食の都市であり、食の安全に関する関心も高い。安心・安全かつおいしい沖縄の野菜・果物がより多くの香港の家庭の食卓に並ぶことが期待される。



空港全景イメージ②

www.cathaypacific.co.jp

キャセイパシフィック航空は おかげさまで、日本就航50周年。

感謝をこめて
50 years
日本就航50周年



日本5都市から香港へ、ルート最多の週91便。さらにその先の世界110都市以上へ。

日本／香港線フライトスケジュール(2009年7月1日～10月24日)

※フライトスケジュールは予告なく変更されることがあります。

日本 ▶ 香港										香港 ▶ 日本																					
		東京					大阪			名古屋		福岡	札幌			東京					大阪			名古屋		福岡	札幌				
便名	曜日	CX509	CX501	CX549	CX451	CX521	CX505	CX503	CX565	△CX507	△CX533	CX535	CX531	△CX511	☆CX581	■CX504	CX548	CX450	■CX520	CX500	CX508	▲CX506	CX564	CX502	CX530	CX536	▲CX532	▲CX510	☆CX580	便名	曜日
日本		0945	1100	1555	1555	1700	1830	1005	1120	1810	1015	1635	1715	1050	1640	0910	0925	1000	1035	1500	1610	1005	1315	1620	0910	1030	1610	1455	0940	香港	
台北					1830								1920	1215									1455	1605	1055			1635		台北	
香港		1325	1450	1940	2115	2045	2210	1305	1550	2100	1325	1940	2200	1500	2050	1435	1455	1710	1600	2020	2125	1445	1940	2105	1540	1525	2105	2045	1530	日本	

□CX521、505はアメリカン航空とのコードシェア便ですが、キャセイパシフィック航空の機材及び乗務員で運航します。

△CX533、507、511は日本航空とのコードシェア便ですが、キャセイパシフィック航空の機材及び乗務員で運航します。

☆CX581は2009年9月1日以降は、日・水・木・土のみ運航。

■CX504、520はアメリカン航空とのコードシェア便ですが、キャセイパシフィック航空の機材及び乗務員で運航します。

▲CX532、506、510は日本航空とのコードシェア便ですが、キャセイパシフィック航空の機材及び乗務員で運航します。

☆CX580は2009年9月1日以降は、日・水・木・土のみ運航。

www.cathaypacific.co.jp

ウェブサイトにはお得で楽しい情報がいっぱい!

- 1 香港行きの航空券が30,000円より! お得な正規割引運賃を発売中です。購入が早いほどお得な「はやトクン21」、「はやトクン14」、「はやトクン7」に加え、出発当日まで購入可能な「エコ得」、香港行きビジネスクラス正規割引運賃「ビジ得」、さらに東京発便限定のファーストクラス正規割引運賃「F得」などの幅広いラインナップをご用意しています。
- 2 スピーディで簡単便利なオンラインチェックイン。自宅やオフィスでの搭乗券プリントまで可能なセルフプリント搭乗券もご利用下さい。
- 3 香港&マカオのとっておき情報が満載の「香港逃進行」! スタッフおすすめポイントもあり、自分だけの旅のプランが演出できます。
- 4 メールマガジン「CXスペシャルズ」で最新ニュースやキャンペーン情報をゲット。ご登録はウェブサイトからだけでなく携帯電話からも可能になりました。今すぐご登録を!



キャセイパシフィック航空は全世界1,600万人以上が対象となった、英国スカイトラックス社によるワールド・エアライン・アワードにて『2009年エアライン・オブ・ザ・イヤー』を受賞しました!